



2. 総合周産期母子医療センター関連

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
新生児出生時体重 2,500g未満人数 (合計)	174	156	148
内) 1,000g未満 (超低出生体重児)	30	14	31
内) 1,000g以上～1,500g未満 (極低出生体重児)	17	26	19
内) 1,500g～2,500g 未満	127	116	98

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
NICU*1 実患者数	216	257	270
GCU*2 実患者数	269	271	271
MFICU*3 実患者数	273	176	228

*1NICU (Neonatal Intensive Care Unit; 新生児集中治療室)

NICU は未熟児(早く生まれてしまったり体重の少ない赤ちゃん)や先天的に病気を持っている新生児が集中的な治療を行うための病室です。

*2GCU (Growing Care Unit; 発育発達支援室)

NICU で治療を受けて状態が安定した赤ちゃんや、NICUに入るほどでなくとも治療を必要とする赤ちゃんが入室する病室です。

*3MFICU (Maternal Fetal Intensive Care Unit ; 母体胎児集中治療室)

合併症妊娠(前置胎盤、妊娠高血圧症候群、切迫流産や胎児異常などリスクの高い妊娠・出産)の、母体・胎児に対応する設備と医療スタッフを備えた集中治療室です。

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
緊急搬送件数(母体)	98	98	124
緊急搬送件数(新生児)	83	83	93

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
分娩件数(合計)	653	603	633
内)正常分娩件数	353	339	381
内)正常外分娩件数	300	264	252

解説文

MFICU^{*3} はセンター開設以来 250 名程度の入院患者数を維持しております。当院の新生児科、小児外科、その他診療科とともにハイリスク妊娠・分娩例を母体搬送として毎年 100 件程度受けております。2020 年度は、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の影響で母体搬送の減少により、MFICU^{*3} の入院患者数や分娩数も減少致しました。しかし、2021 年は、再び増加に転じました。また、COVID-19 専用病床を新設し、神奈川県との周産期医療に協力しています。当院は総合周産期母子医療センターであり、限られた医療資源を効率よく提供するため地域周産期センターと協力し、より週数の早い児、重症例を中心に搬送を受け入れる態勢をとっております。

更に、無痛分娩を提供する施設が少ない中 24 時間態勢で麻酔科の協力のもと安全な無痛分娩を提供しています。このことは、近隣の産科医療施設、分娩先を考える妊婦にも周知されたと考えられ、年々無痛分娩数が増加しています。全国平均で 6%と言われる無痛分娩の頻度に対し、当院では約 40%が無痛分娩であります。総合周産期母子医療センターとしての役割を果たしているだけでなく、妊婦のニーズに応えられるような産科医療を提供できていると考えております。精密超音波外来、助産師外来、出生前検査なども積極的に外来で行っており、地域の周産期医療の利便性向上に努めています。

新生児部門の入院数は大きく変わっていませんが NICU^{*1} 入院患者数は 2 年連続で増加しました。一方で 2020 年度に低下した低出生体重児の入院数はさらに減少しています。但し、内訳より重症である、1000g 未満の新生児の入院数は一昨年の水準に戻りました。また、この指標には掲載されていませんが、手術を要する症例も増加しています。COVID-19 の影響は 2021 年度も少なくないと考えていますが、より重症な児に限定すると、流行前の状態に戻ってきている様に思われます。

新生児の緊急搬送については、2020 年度とより多くの数を受け入れております。正期産やそれに近いお産は近隣の産院で行われることが多いですが、新生児仮死や生後の呼吸障害などで搬送される新生児の数については COVID-19 の影響を受けない事を示していると考えています。総合母子周産期医療センターとして、重篤な新生児の搬送をいつでも引き受けるという点において、地域医療に根ざした、新生児医療が提供出来ていると考えています。